

令和7年度 第10回 FD・SD 研修会報告

日 時：令和7年12月16日（火）14:50～15:30

場 所：H207

出席者：25名

発表者：加藤 博 学長

テーマ：「ティーチング・ポートフォリオ（2024年度）の共有」

ティーチング・ポートフォリオは、教員が自らの授業を振り返り、教育の責任、教育方法および成果等を年に一度記録し、授業改善に継続的に活かすための仕組みである。これらの記録を教員間で共有することで、互いの実践から学び、今後の改善につなげていくことを目的としており、自己点検活動の一環として位置づけられている。

講話の冒頭では、教員が担う「教育の責任」に触れつつ、授業が3ポリシーと関連づけて展開されているかを確認する重要性が述べられた。次に、本学が掲げる建学の精神である「遊学の精神の涵養」「良妻賢母の育成」と照らし合わせながら、今年度は特に「ウェルビーイング」をキーワードとして教員コメントが抽出・共有された。学生支援への姿勢、教育観の変化、授業外での気づきなど、多様な視点からの振り返りが紹介され、幅広い観点から教育を捉え直す機会となった。また、今後の「目標」として、ある教員のコメント（全文）が取り上げられた。若い頃は「楽しく授業ができればよい」と考えていたが、経験を重ね指導技術が向上する一方で、かつて抱いていた“ワクワクする感覚”が薄れてきた、でも今の自分だから作れる“あたたかい盛り上がり”があるのではないかと、という率直な振り返りが述べられた。この言葉は、教員生活が長くなってきた同世代の教員を中心に共感を呼び、教員としての初心と情熱を改めて思い起こさせるものであった。研修の締めくくりには、これから卒業していく学生たちの姿を思いながら味わいたいという趣旨で、乃木坂46の「人生を考えたくなる」の歌詞の一部が紹介された。この一節は、日々、学生に向き合う教員自身の姿勢を省みるメッセージとして共有された。

本研修会は、年に一度のティーチング・ポートフォリオ共有の場であるが、単なる記録確認にとどまらず、教員一人ひとりが自身の教育実践を見つめ直す意義深い時間となった。

